

おもちゃ病院 コメント

このたび、愛知県より「ボランティア活動功労者表彰」という荣誉ある賞を団体としていただきました。発足以来23年間続けてきた私たちの活動が、このような形で認めていただいたことをとてもありがたく思っています。これを機会に今一度初心の志を再確認して、一層おもちゃの修理に力を注ぐとともに、地域への貢献に励んでいきたいと思えます。今後も皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

さて、私たちの「おもちゃ病院」は、2000年に数名の有志の方々が、物を大切に長く使う風土を育てたいという思いから作野福祉センターで開設しました。ちょうど小中学校の第2、4土曜日がゆとり教育のため休みになった時期と重なり、休日に親子で楽しくふれあいながら修理ができる風土ができないかと考えました。

その後、修理の場所を作野福祉センターから作野児童センターへ移し、二本木児童センター、安祥福祉センター、堀内公園と順次増やしてきました。コロナ禍により、一部屋の入室人数に制限ができたため、作野児童センターの部屋を作野公民館の部屋へ、二本木児童センターの部屋を二本木公民館の部屋へと入室可能な人数が大きな部屋へと移動しました。

私たちの活動はボランティアであるため、原則無料で修理をしています。ただし、モーター等の部品の交換した場合は、実費をいただいています。今まで楽しく遊んでいたおもちゃが動かなくなったので使えないと諦めていた物が、切れたコードをつないだり、割れた歯車を交換したり、折れてしまったところを補修したりすることで、再び生き返り元のように動くようになります。今まで諦め捨ててしまったり、新しい物を買ったりしていたおもちゃが使えるようになります。やはり、長く使って愛着のあるおもちゃがもう一度使えることになることは、子どもにとってとても大きな喜びです。そういった愛着のあるおもちゃを長く使ってもらえることは、私たちにとっても喜びになっています。

実際、大切にしていたおもちゃが動かなくなり、悲しそうな顔でおもちゃ病院を訪ねてくる親子が、修理の結果動くようになり、親子にお返しする時、喜びの笑顔と喜びの声を上げて喜んでくれます。私たちは、この瞬間がとても嬉しいです。おもちゃを直して良かったと充実感を味わう瞬間でもあります。子どもたちの喜びの声と笑顔が「私たちの次への力」となっています。子どもの笑顔が見たくて修理をしていると言っても過言ではありません。

最近の傾向では、自分の子どもで使ったおもちゃを大事に保管しておいて、今度は孫に使ってもらおうという方が目立ちます。また、子どもが成長して使わなくなったおもちゃを友人へ譲ったり、反対に友人からおもちゃを譲ってもらったりする方も多くなってきました。私たちが目指している物を大切にする心や、治ったおもちゃを通して家族さらに地域のふれあいが少しずつ増えて来ていることを実感しています。2019年には年間修理数530件を超えましたが、コロナ禍で一度大きく減少しました。しかし、2021年には年間修理数350件を越え、少しずつではありますが、右上がりの傾向にあります。多くの方に、おもちゃ病院の存在を知ってもらい、ぜひ足を運んでもらえることを願っています。